

あうる

O W L

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話 32

札幌を東西に分ける「創成川」。 大友亀太郎が指揮したその前身 「大友堀」の開削は、人々に 「二万両の大工事」と呼ばれた。

小田原時代

大友亀太郎は、天保五（一八三四）年四月二十七日、相模国足柄下郡（現在の神奈川県小田原市）の農家・飯倉吉右衛門の長男として生まれた。

幼い頃から学問を好み、貧農だったため思うような勉強ができないなか、若くして読み書き・算盤を習得した。同郷の士に同じく貧農から身を起こし、天下に報徳の道を説いた二宮尊徳（金次郎）がおり、亀太郎は日頃から尊徳を敬慕していた。

二〇歳のとき亀太郎は村の会計係となったが、経理事務だけでなく行政実務や土木事業まで引き受け、懸命に働いた。ひつ迫する村の財政（貧しい農民の暮らし。これらを見て、我が身の生涯を一村だけで終わらせるのではなく、広く社会のために使いたいという気高い志が醸成されていた）。

その志を実現させるべく、安政二（一八五五）年からの三年間、二宮尊徳の門下生となり、多くのものを身につけた。己の土木技術を向上させるため、水路の開削や道路の開墾・整備等々の工事に骨身を惜しまず従事する亀太郎の姿勢は、尊徳はもとより周囲の人々の称賛的となった。この時に得た技術が蝦夷地開拓に発揮されることとなる。

幕臣として蝦夷地開拓に

亀太郎二五歳のとき、その能力が幕府の目に留まり幕臣として召し抱えられた。これを機に苗字を大友と改め、亀太郎は安政五（一八五八）年十二月に箱館奉行付とな